



客席。奥は厨房。照明器具はデンマーク製。この辺の郊外ではまだミッドセンチュリーブームがあまり普及していないそう。ペット連れのための広さは、間延びして見えるので、アクセントに天井の高低差をつけた。



外観。周囲には大型のスーパーマーケットや典型的な郊外型の団地が建ち並ぶ。空が広い。

設計事務所、工務店、建築家、職人、 新しいポジションで空間をつくる集団 a'DandC

話題の**新空間**
新しい時代の店舗デザイン

Dog Café funny face

守備範囲の広さと迅速な仕事

このドッグ・カフェの設計と施工を手掛けた、荒川浩司さん率いるa'DandC(エー・ディー・アンドシー)は、今までの枠にとらわれない柔軟さと迅速さで、今、勢いのある会社のひとつだ。平成9年の設立以来、企画からデザイン、施工、はたまたゴミ片づけまで何でもこなす。この会社の守備範囲の広さは、50代の大工さん、20代前半の若い大工見習い、デザイナーなど個性豊かなスタッフ1人1人の、さまざまな経験からつくり出されている。

設計と施工を一貫して請け負うとき、もっともメリットとなるのは、デザインと現場とのやりとりが早いことである。気心の知れたスタッフ同士は、微妙なニュアンスもあうんの呼吸ですぐに伝えられる。この物件は施主との顔合わせから竣工までわずか3週間たらずで完成に至った。打ち合わせも2回

だけと驚異的なスピードだ。

ペット業界全般の物販会社を経営しているオーナーの佐藤隆之さんは、ドッグ・カフェは初の試みだったが、基本的な機能以外、デザインについてはほとんどa'DandCに一任だったそう。郊外だからできる広々とした余裕の空間は、犬にとって機能的であり、人にとってはゆったり感が得られる。自然素材を使い、飽きのこない材料で洗練された空間を提案している。特にこだわったのは色使いで、落ち着いたアースカラーで全体をまとめた。ペットを連れずにカフェのみの利用の人も多い。宣伝は全くしていないがインターネットや口コミで客足が伸びている。

専門業者との信頼関係

「こうした」をデザイン言語、そして職人言語へ

設計施工一貫の場合しばしば問題となるのは、コストを客観的に査定する人がいないことであるが、「ごまかして不当な利益を上げるような業者は、この時代残っていないのでは。」とデザイン担当の屋宜さんは言う。常々デザイン、マテリアル、コストを最適なバランスでまとめ、ローコストでいかに良いものができるかを考えているそう。

同社はD.C NETWORKという別組織を持っていて、この物件ではそれを最大に活かし、結果として20%ものコストダウンにつながった。通常施工業者は仕入れに利益に上乗せしなければならなくなるが、専門業者が直接、施主に納品と請求をすることで無駄を省き、a'DandCでは、設計費、管理費、した仕事分だけの費用という、明快な利益のみを得ることとなった。専門業者の利益はどちらの場合も変わらないが、施主にとっては上乗せ分の金額が削減されるという結果となる。屋宜さんは「自分たちの仕事は益々忙しくなったが、施主にも業者にも喜んでもらえた。」とうれしそうに語る。

また施工のみ請け負うような場合、設計者に対して「現場をもう少し勉強してほしい。デザイン優先でディテール考えなさい。」と指摘する。しかし逆に「いいデザインにしてくれば、自分たちはそれを支えるディテールを喜んで考えますよ。」とエールも送る